

活躍できる人に！ -SIAの取組-

夏休み！教員のための国際理解教育セミナー

8月1日(水)・2日(木)の2日間、埼玉県ユニセフ協会、(独)国際協力機構広尾センターとの共催で、学校の教員を対象とした国際理解教育セミナーを開催しました。

セミナーには75名が参加し、外部講師を招いて授業を行うにはどうしたらよいか、世界で起きている問題について考える授業を行うにはどうしたらよいか、具体的にどのような授業をしたらよいかなど、国際理解教育の実践方法について学びました。

1日目に行われた基調講演では、目白大学人間学部学部長の多田 孝志教授が、「グローバル時代・多文化共生社会で、生きて役立つ資質、能力、技能を持った人材を育成するには国際理解教育が必要だ。」とお話しになりました。

2日目は分科会を行い、当協会の担当した分科会では、モンゴル出身とチベット自治区出身の外国人講師による模擬授業を見ていただきました。モンゴルの授業では、馬頭琴の音楽を流しながら、小学校2年生の国語で学習する「スーホの白い馬」を日本語で朗読し、会話部分をモンゴル語で話しました。参加者からは、「音楽やモンゴル語が入ることで今まで知っているものとは違うものになった。児童の興味・関心を引き出すのに効果的だと思う。」「朗読だけでなく、紙芝居か絵を画面に写し出すのもっといいかも。」などと様々なご意見をいただきました。最後に拓殖大学の石川 一喜氏が「ワールドカフェ」を用いてセミナー全般のふりかえりを行いました。

今回のセミナーを2学期からの授業に活かしていただけることを期待しています！



基調講演



分科会：モンゴルとチベットの文化紹介



「ワールドカフェ」でふりかえり

参加者の感想

- 今まで知らなかった文化、思想にふれ、感動した。子どもたちにも異なる文化を伝えて行きたいと思った。(小学校教員 女性)
- 参加型、体験型学習の一例を教えてくださいました。更に勉強して授業の中に取り入れてみたいと思います。(中学校教員 女性)
- ふりかえり「ワールドカフェ」がすばらしかったです。(高等学校教員 男性)

埼玉大学から インターンが やってきました！

インターンシップは、大学生などが社会経験を積むために企業などで実習・研修的な就業経験を行う制度です。当協会は、平成17年度に埼玉大学教養学部と「実務実習に関する覚書」を結んで以来、毎年インターンシップを受け入れています。

今年も2名のインターン(研修生)が協会の様々な業務に携わりました。

今回経験したことがきっかけとなり、将来、グローバルな視野を持つ幅広く活躍する人材となってくれることを願っています。

インターンシップに参加した感想



受付で資料づくりとお客様の応待

プージャ・ジョシ さん

国際協力県民プラザの受付で来客の対応をしたり、国際理解教育セミナーの打ち合わせに参加したり、また、当日の会場の準備・受付をしたりと、いろいろなことをすることができて勉強になりました。1週間とてもいい経験になりました。ありがとうございました。



料理教室の打ち合わせに参加
(奥側中央が白岩さん)

白岩 綾乃 さん

社会人だけの職場に身を置くことで、仕事はチームプレーだと実感しました。目的からブレることなく、協力していく姿勢を見習いたいです。また、2日間セミナーの手伝いをさせていただき、こんなに身近に外国人がいて、異文化について考える機会は今までなかったので、視野を広げる貴重な時間を得ました。有意義な体験をさせていただいたこと、感謝いたします。